

§ 4 耐震診断結果

4.1 形状指標 (S_D) 《Fes版》

(表6) 形状指標(S_D)の算定

※ 該当する部分に ● 印を入力する。

項目	計算値	Gi(グレート)			1次用		2次用		
		1.0	0.9	0.8	Ri	1-(1-Gi)Ri	Ri	1-(1-Gi)Ri	
1次 2次 3次 診断用	a 整形性		整形a1	ほぼ整形a2	不整形a3	1.0	1.000	0.5	1.000
	b 辺長比	40.00/9.70 = 4.13	● b ≤ 5	5 < b ≤ 8	b > 8	0.5	1.000	0.25	1.000
	c くびれ	なし	● C ≥ 0.8	0.5 ≤ C < 0.8	0.5 > C	0.5	1.000	0.25	1.000
	d エクスパンションジョイント	50/7,800 = 1/144	d ≥ 1/100	● 1/200 ≤ d < 1/100	1/200 > d	0.5	0.950	0.25	0.975
	e 吹抜	なし	● e ≤ 0.1	0.1 < e ≤ 0.3	0.3 < e	0.5	1.000	0.25	1.000
	f 吹抜の偏在		● f1 ≤ 0.4かつ f2 ≤ 0.1	f1 ≤ 0.4かつ 0.1 < f2 ≤ 0.3	0.4 < f1又 0.3 < f2	0.25	1.000	0.0	1.000
	g その他特殊形状								
	h 地下室の有無		h ≥ 1.0	0.5 < h ≤ 1.0	0.5 > h	1.0	1.000	1.0	1.000
	i 層高の均等性		i ≥ 0.8	0.7 ≤ i < 0.8	0.7 > i	0.5	1.000	0.25	1.000
	j ピロティの有無		ピロティなし	全てピロティ	ピロティが偏在	1.0	1.000	1.0	1.000
k									
2次 3次 診断用	l 偏芯率 (Fe)	X	3階	1.000	1.000			1.0	1.000
			2階	1.000	1.000			1.0	1.000
			1階	1.006	0.994			1.0	0.994
	m 剛性 (PR)	Y	3階	1.000	1.000			1.0	1.000
			2階	1.000	1.000			1.0	1.000
			1階	1.000	1.000			1.0	1.000
	n 剛性率 (Fs)	X	3階	1.000	1.000			1.0	1.000
			2階	1.000	1.000			1.0	1.000
			1階	1.000	1.000			1.0	1.000
o 剛性 (SR)	Y	3階	1.000	1.000			1.0	1.000	
		2階	1.000	1.000			1.0	1.000	
		1階	1.000	1.000			1.0	1.000	

a1: ほぼ2軸対称のもので、一つの突出部の面積が床面積の10%以下のもの。

a2: a1より不整形なもの。また、L、T、U型等の平面で一つの突出部の面積が床面積の30%以下のもの。

a3: a1より不整形なもの。また、L、T、U型等の平面で一つの突出部の面積が床面積の30%を超えるもの。突出部とは、長さ(L)/幅(b) ≥ 1/2 の場合を対称とする。

b: b=長辺/短辺、L、T、U型等の場合は長辺長さは2Lを用いる。

c: c=D1/D0

d: d=エクスパンションジョイントの躯体間隔/エクスパンションジョイント部の高さ。

e: e=吹抜部面積/床面積(吹き抜け部面積を含む)

f: f1=建物中心と吹抜部中心間の距離/建物の短辺長さ; f2=建物中心と吹抜部中心間の距離/建物の長辺長さ

h: h=地下面積/建築面積

i: i=上層の階高/検討する層の階高または下層の階高/検討する層の階高

j: j=床面がピロティのみにより支持されており、かつそのピロティの平面的配置が偏っている場合を偏在として扱う。

1次用 S _D	2次用 S _D			
	X方向		Y方向	
0.95				
	3階	0.97	3階	0.97
	2階	0.97	2階	0.97
	1階	0.96	1階	0.97